

研修センター便り

No.6 後志教育研修センター

平成27年 9月28日 発行

TEL 0136-22-1337

FAX 0136-22-2681

時代が求める教育の流れとセンターの役割

所長 平 正 博

大水害で通学不能となった茨城県常総市の児童生徒が、24日、2週間ぶりに登校しました。子供たちの笑顔は、当たり前になっていた日常生活のありがたみを体いっぱいにも語るものでした。

それにしても、50年、100年に一度ともいわれる大災害が頻りに日本列島を襲っています。現在、世界の気象学者は、過去2000年間に起きた気象変化から、今後、起こりうる異常気象を予測しようとしています。中でも、木の年輪に着目した研究者がおりました。弥生時代にまで遡り、それぞれの時代の年輪を数多く調べ、遂に大災害のサイクルを探り当てました。およそ400年前後に一度起こってきたということです。最近の異常気象はその予測年に当たっており、今こそ、歴史学（文系）と気象学（理系）など、多岐にわたる学問の融合が大切であると報じていました。

工学博士である田坂広志氏は、著書「知性を磨く」の中で、「20世紀においては、個別分野の専門知性だけで解決できる問題は、そのほとんどを解決してきた。それゆえ、残されている問題の大半は、個別分野の専門知性だけでは解決できない『学際的問題』となっている。様々な専門分野の垣根を超えることが大事である。」と述べています。一方、それらの内容は、平成26年3月、「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」が示した論点整理と類似します。

[内容] 現行の学習指導要領で定められている各教科等の教育目標・内容を以下の三つの視点で分析した上で、次期学習指導要領の中に適切に位置付け直すよう検討すべきである。[文科省HPより]

ア) 教科等を横断する汎用的なスキル等に関わるもの

- ① 汎用的なスキル等としては、例えば、問題解決、コミュニケーション、そしてそれらの基盤となる「論理的思考」、「意欲」など
- ② メタ認知（自己調整や内省、批判的思考等を可能にするもの）

イ) 教科等の本質に関わるもの（教科等ならではの見方・考え方など）

ウ) 教科等に固有の知識や個別スキルに関するもの

つまり、どの教科においても、知識や既習事項を基に見通しを持たせ、教科等の本質に関わる見方や考え方を駆動輪として推論を興し、メタ認知を育て課題解決に向かう資質・能力の育成であります。

そのためには、すべての教職員が、これからの子供たちに求められる資質や能力を十分に理解し、それらを培うための指導理論と実践的指導力を身に付ける研修が極めて大切となります。

先日、徳田智裕部長をはじめ、金本真一、横田恭平、山田耕平各所員が、第70回道研連研究発表大会（渡島大会）に参加し、「教員研修の充実に向けた取組部会」において、実践的指導力を持つ教員養成について発表し、協議を深めてまいりました。それらの内容は、来年1月実施予定の「事業報告会」にて提示します。なお当日は、社会教育研究委員会からの報告もあり、学社融合の側面からも研修を深め、参会者からのご意見もお聞きする予定でございます。



「学級経営1」研修講座 6/22
 講師 吉尾充二（大川小） 濱田里美（望洋台中）



「音楽科」研修講座 6/24
 講師 田中啓章（寿都小） 白井尚史（東中）



「小学校外国語」研修講座 6/25
 講師 半澤みさと（朝里小） 佐藤兼祐（潮路小）



10月の講座紹介

- 10月14日（水）「ミニ道研」 講師 北海道立教育研究所 研究研修主事 大脇 明子 先生
 ※ 申し込みの締め切りは10月7日（水）までとなっております。旅費は道研負担です。
 時間 9：30（講義開始）～16：00
 内容 午前 1 校内研修・研究の進め方（マネジメントサイクルを生かした校内研修・研究など）
 2 授業改善を促す校内研修・研究の方策（授業研究の実際など）
 午後 1 学習評価の基本的な考え方（学習評価の意義や手順、評価規準の位置づけなど）
 2 学習評価を生かした授業改善（単元指導計画や1単位時間の学習指導案の改善など）
 27日（火）「国語科②」 講師 北澤卓也（東中） 窪田知可子（岩内東小）
 30日（金）「英語科②」 講師 山崎史朗（末広中） 佐藤 寛子（留寿都中）